

新潟県における中世前期の輸入陶磁とその流通

春日 真実

はじめに－報告のねらいと目的－

新潟県内で輸入陶磁器が出土した主な遺跡について「1点出土面積」(調査(平)面積÷破片数)を検討する。第1表に示した遺跡には接合した破片は1とカウントする遺跡とそうでない遺跡が混在しているが、大まかな傾向は示すことができると考えている。分類は山本信夫 2010『大宰府坊条跡 XV 陶磁器分類編』太宰府市教育委員会、時期区分は山本信夫 2010「貿易陶磁の編年・分類研究の現状と課題」『貿易陶磁器研究』30号 貿易陶磁研究会 を用いる。主にC期～F期を対象とするが。A期・B期の様相についても簡単に触れる。

1 A期・B期の様相

A期は阿賀野市山口遺跡(唐三彩)、糸魚川市角地田遺跡・上越市四ツ屋遺跡・新潟市大沢谷内遺跡・胎内市下町坊条遺跡(越州窯青磁碗・小碗)、上越市五反田遺跡・阿賀野市大坪遺跡(白磁碗Ⅰ類)、上越市至徳寺遺跡・村上市西部遺跡から輸入陶磁器(白磁皿Ⅰ類)が出土している。

B期は上越市至徳寺遺跡で白磁碗Ⅰ類が出土している。A期と比較すると出土量は減少しているようである。

2 C期・D期の様相

C期はA・B期と比較すると輸入陶磁器の出土量が急増する。越後では国府周辺(上越市至徳治遺跡)、国津である蒲原津が存在した信濃川河口周辺(新潟市中央区山木戸遺跡)、城氏の拠点である阿賀北地域(阿賀野市大坪遺跡、胎内市下町・坊条遺跡)などで輸入陶磁器を多く出土する遺跡が確認できる。一方、平面積70㎡以上の総柱建物が存在し、比較的有力と推測する遺跡で1点出土面積が1,000㎡を超える例(上越市二反割遺跡)が確認できる。輸入陶磁器が多量に出土する遺跡とそうでない遺跡は中世の各時期に存在するが、当期はその差が特に顕著である印象を受ける。

なお珠洲Ⅰ期に先行する輸入陶磁器は、越後では少数と推測している。珠洲Ⅰ期以前の土師器皿と白磁の共伴例が定量ある上越市至徳寺遺跡を除き、他の遺跡から出土する白磁碗Ⅱ・Ⅳ類などの多くは、珠洲Ⅰ期以降に流通した可能性が高い(註1)。

3 E・F期の様相

E期は輸入陶磁器の出土量がさらに増加した可能性が高い。胎内市下町・坊城遺跡、新発田市住吉遺跡、同市二ツ割遺跡、新潟市北区下前川原遺跡、糸魚川市山岸遺跡では当期の輸入陶磁器が多量に出土している。下町・坊城遺跡、山岸遺跡は有力氏族の拠点、住吉遺跡・二ツ割遺跡・下川原遺跡は潟湖の周辺に所在し、日本海交通と内水面交通の結節点となる遺跡と考えている。

なお、E・F期の輸入陶磁器が多く出土した遺跡には滑石製石鍋を伴う場合があり、当期の輸入陶磁器の増加には九州北部との関係強化が推測できる(註2)。

結 び

A・B期は9遺跡で輸入陶磁器が確認できるが至徳寺遺跡を除き、単発の出土である。C・D期には輸入陶磁器の出土量(≒流通量)が大幅に増加し、E期には輸入陶磁器の出土量(≒流通量)がさらに増加した可能性が高い。C・D期からE期にかけて輸入陶磁器の出土量が増加する傾向は北陸に広く確認できる事象と考えるが、山陰ではC期に輸入陶磁器流通のピークがあったようで[山本2010]、同じ日本海側でも北陸と山陰では輸入陶磁器の流通状況に差があった可能性が高い。

| 市町村 | 遺跡名 | 破片数 | | | | | | 面積 (㎡) | | 滑石 石鍋 | 備考 | 文献 |
|-----------------|-------------------|-----|-----|-----|----|-----|-----|----------|------------|----------|--------------------------|----------------|
| | | 白磁 | 青白磁 | 青磁 | 青花 | その他 | 合計 | 調査面積 | 1点出土 面積 | | | |
| 阿賀野市 (安田町) | 大坪遺跡 | 203 | 13 | 84 | 8 | 11 | 319 | 10,000 | 31 | × | C・D 期中心 | 県教委ほか 2006a |
| 胎内市 (中条町) | 下町・坊条 遺跡 (A 区) | 29 | | 36 | | | 65 | 2,833 | 44 | × | C・D 期中心 | 町教委 1997 |
| 新潟市 中央区 | 山木戸遺跡 | 57+ | 2+ | 26+ | | | 85+ | 2,097 | 25 以下 | ○ | C・D 期中心, 実測個体数 | 市教委 2004 |
| 新潟市秋葉 区(新津市) | 細池寺道上 遺跡Ⅲ | 6 | | 7 | | | 13 | 2,912 | 224 | × | C・D 期中心 | 市教委 2014a |
| 上越市 | 至徳寺遺跡 | 520 | 54 | 145 | | | 665 | 30,000 ? | 45 | × | C・D 期、面積 要検討 | 上越市 2003 |
| 上越市 | 用言寺遺跡 | 14+ | | 9+ | 1+ | 1+ | 25+ | 6,700 | 268 以下 | × | C・D 期中心, 実測個体数 | 県教委ほか 2006b |
| 上越市 | 二反割遺跡 | 2 | | | | | 2 | 2,700 | 1,350 | × | C・D 期中心 | 県教委ほか 2012a |
| 糸魚川市 | 伝極楽寺跡 | 20 | | 17 | 1 | | 38 | 2,585 | 68 | × | C・D 期中心 | 県教委ほか 2010b |
| 出雲崎町 | 寺前遺跡 | 38 | 8 | 97 | 2 | 3 | 148 | 2,700 | 18 | × | D 期中心 | 県教委ほか 2008a |
| 新潟市北区 (豊栄市) | 下前川原遺 跡 | 16 | 20 | 145 | | | 181 | 1,899 | 10 | × | D・E 期中心 | 市教委 2004 |
| 新潟市秋葉 区(新津市) | 沖ノ羽遺跡 Ⅴ (市教委) | 2 | 1 | 43 | | | 46 | 8,052 | 175 | × | D・E 期中心 | 市教委 2014b |
| 新潟市秋葉 区(新津市) | 沖ノ羽遺跡 Ⅲ (県教委) | 1 | | 16 | | | 17 | 6,100 | 359 | × | D・E 期中心 | 県教委ほか 2003 |
| 上越市 (頸城村) | 空仏遺跡 | 5 | | 5 | | 2 | 12 | 1,680 | 140 | ○ | D・E 期中心 | 村教委ほか 2004 |
| 新発田市 (紫雲寺町) | 住吉遺跡 | 121 | 91 | 316 | | 1 | 529 | 8,150 | 15 | ○ | E・F 期中心 | 県教委ほか 2006c |
| 新発田市 (紫雲寺町) | 二ツ割遺跡 | 90 | 80 | 350 | | | 520 | 4,100 | 8 | ○ | E・F 期中心 | 町教委 2004 |
| 新発田市 (紫雲寺町) | 中住吉遺跡 | 10 | 5 | 30 | | | 45 | 3,900 | 87 | × | E・F 期中心 | 町教委 2004 |
| 新潟市南区 (白根市) | 小坂居付遺 跡 | | | 13 | | | 13 | 4,300 | 331 | × | E・F 期中心, 面積は遺構集 中区 | 県教委ほか 2012b |
| 出雲崎町 | 番場遺跡 | 7 | 4 | 37 | 3 | 1 | 52 | 4,400 | 85 | × | D～G 期中心 | 県教委 1987 |
| 阿賀野市 (水原町) | 境塚遺跡 A 区 (県教委) | 10 | | 46 | | 1 | 57 | 5,000 | 88 | ○ | E～G 期中心 | 県教委ほか 2012c |
| 阿賀野市 (水原町) | 境塚遺跡 D 区 (県教委) | 3 | | 15 | | | 18 | 2,300 | 128 | × | E～G 期中心 | 県教委ほか 2012c |
| 阿賀野市 (水原町) | 境塚遺跡 (市教委) | 3 | 2 | 141 | | | 146 | 3,142 | 22 | × | E～G 期中心 | 市教委 2011 |
| 胎内市 (中条町) | 下町・坊条 遺跡 (D 区) | 66 | | 44 | | | 110 | 4,220 | 38 | × | C・D 期 | 町教委 2005 |
| | | 13 | | 122 | | | 135 | | 31 | | E・F 期 | |
| | | 62 | | 153 | 22 | | 237 | | 18 | | G 期以降 | |
| 糸魚川市 | 山岸遺跡 | 252 | 13 | 54 | | | 319 | 21,940 | 69 | ○ | C・D 期 | 県教委ほか 2012d |
| | | 105 | 107 | 655 | | | 867 | | 25 | | E・F 期 | |
| | | 20 | | 66 | 8 | 5 | 99 | | 222 | | G 期以降 | |

第 1 表 調査面積と輸入陶磁器破片数

【註】

註1 上越市用言寺遺跡 SE183[新潟県教委ほか 2006b]からは、C期の白磁が一定量出土したが、珠洲は伴っていない。珠洲の流通に先行して白磁を一定量保有していた越後では数少ない事例の1つとなる可能性が高い。出土した白磁の構成を見ると、広東産の白磁（Ⅱ類やⅩⅡ類など）が6点中3点を占めている。白磁Ⅳ～Ⅷ類が多い越後の他遺跡とは輸入陶磁器の構成も異なる。阿賀野市大坪遺跡は11世紀後半～12世紀前半の土師器皿が出土しているが、白磁の大半がⅣ～Ⅷ類であり、Ⅱ類・ⅩⅡ類・ⅩⅢ類は少ない。

註2 新潟市中央区山木戸遺跡はC・D期の輸入陶磁器が多く出土している遺跡であるが、滑石製石鍋が伴っている。山木戸遺跡からは13世紀の結物水溜を持つ井戸が検出されており、九州との密接な交流が推測できる〔水澤 2009〕

【引用・参考文献】

- 阿賀野市教育委員会 2011 『阿賀野市埋蔵文化財調査報告書第4集 境塚遺跡』
- 頸城村教育委員会 2004 『杵仏遺跡』
- 紫雲寺町教育委員会 2004 『紫雲寺町埋蔵文化財調査報告書第3集 二ツ割遺跡・中住吉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 上越市 2003 『上越市史叢書8 考古－中・近世資料－』
- 上越市教育委員会 1989 『四ツ屋遺跡発掘調査報告書』
- 豊栄市教育委員会 2004 『下前川原遺跡』
- 中条町教育委員会 1997 『中条町埋蔵文化財調査報告第12集 下町・坊城遺跡Ⅱ』
- 中条町教育委員会 2005 『中条町埋蔵文化財調査報告第33集 下町・坊城遺跡Ⅳ』
- 新潟県教育委員会 1987 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第48集 番場遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集 沖ノ羽遺跡Ⅲ』
- 新潟県教育委員会ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第138集 台の上遺跡・峪ノ上遺跡・五反田遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2006a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第153集 大坪遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2006b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第159集 用言寺遺跡Ⅰ』
- 新潟県教育委員会ほか 2006c 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第157集 住吉遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2008a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第189集 寺前遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2008b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第181集 田屋道遺跡Ⅰ・宮の越遺跡Ⅰ』
- 新潟県教育委員会ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第191集 角地田遺跡・平遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2010a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集 西部遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2010b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第209集 前波南遺跡Ⅱ・伝極楽寺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2012a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第236集 二反割遺跡・延命寺遺跡Ⅱ』
- 新潟県教育委員会ほか 2012b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第238集 小坂居付遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2012c 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第232集 境塚遺跡』
- 新潟県教育委員会ほか 2012d 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第228集 山岸遺跡』
- 新潟市教育委員会 2004 『新潟市山木戸遺跡』
- 新潟市教育委員会 2014a 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査』
- 新潟市教育委員会 2014b 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査』
- 新潟市教育委員会 2015 『大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査』
- 水澤幸一 2009 『日本海流通の考古学－中世武士団の消費生活』
- 山本信夫 2000 『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2010 「貿易陶磁の分類・編年研究の現状と課題」『貿易陶磁研究』30 日本貿易陶磁研究会